

教科等のコラボで図書館活用を広げる

—図書館コラボによる学びの深まり—

『学校図書館』 6月号

6月号は、教科等のコラボで図書館利活用を広げる
—図書館コラボによる学びの深まり—です。コラボで図書館活用です。

他教科等に図書館活用を広げるために

教科のコラボレーションで図書館を活用 授業計画段階でコーディネート！

- 1、国語科「和歌の世界」
和歌の調べ学習・プレゼンテーション 【校内研究授業】
- 2、美術科「日本の伝統色と古典文様」
図書館で資料を活用し、和歌を淡彩で表す 【授業参観】
- 3、文化発表会でコラボ作品の展示
互いに味わい、全校生徒・保護者にも紹介 【鑑賞会】

国語3年「和歌の世界」単元のねらい

- 描かれた情景や心情を現代と比べてとらえ、古典和歌への関心を深める。
- 和歌の形式や表現の特徴をもとに、感動の中心と詠まれた状況を調べ想像して読み取る。
- 読み取った情景や心情を文章にして味わう。

授業計画

第1次（教室）

- ・万葉集・古今和歌集・新古今和歌集についての基礎的な事柄を理解する。
- ・それぞれの和歌について、読み慣れる。
繰り返し音読することで、歌の大意をとらえ、句切れによる表現効果を考える。

第2次（図書館：調べ学習）

- ・好きな和歌を選び、資料を手がかりに、その和歌の内容について情景・心情を考え、ワークシートにまとめる。表現技法についても確認する。

第3次（教室）

- ・選んだ和歌について、その和歌が生まれた背景を想像して簡単な物語や鑑賞文を作り、発表する。 【校内研究授業】

第4次（美術室）

- ・選んだ和歌の情景や心情を突き詰め、それを色と抽象的模様で表現することで、和歌をより深く味わう。 【美術科とのコラボ授業】
- ・墨で色紙に和歌を書き入れる。

第5次（教室、文化発表会展示） 【交流会】

- ・鑑賞文の発表や作品の展示から、互いに見たり聞いたりした感想を出し合い、理解を深める。

美術3年「日本の伝統色」単元のねらい

- 日本の伝統色について学び、日本の美術文化についての理解を深める。
- 伝統色と昔の生活や季節との関わりを学ぶ。
- 和の色や文様を身につけ、自分の作品表現に生かせるようにする。
- 色で表現することにより和歌をより深く味わう。

授業計画

第1次（図書館：調べ学習） 【授業参観】

- ・本の装丁などに使われている日本の伝統色と古典文様を調べる。
- ・日本に古来から伝わる色を図書館の色辞典等で調べ、イメージにぴったりくるものを探す。
- ・身の回りの服や文具等に使われている伝統色の名前の由来や色の名前の豊富さを辞典で調べる。
- * 藍染めの青の名前の種類の豊富さ、紺色、縹色、浅葱など

第2次（美術室：図書館の資料活用）

- ・代表的な日本の伝統色をポスターカラーで混色して作ってみる。
- * 彩度を低くする為、三色以上の混色が望ましい。
錆色、浅葱色、萌葱色、刈安色
- * 水をたくさん用いて淡く、にじみが生じるような日本画の筆の技法について触れる。

第3次（美術室） 【国語科とのコラボ授業】

- ・昔の歌人が感じていたであろう色を和歌の挿絵として描く。
- ・色紙に和歌とのバランスを想定して、和歌の雰囲気が出るような色（形）を見つける。
- * 絵が具体的になりすぎないようにする。色数も説明的になりすぎないように出来るだけ1色におさえる。
- * この段階では何が描かれているか分からなくて、和歌が入って初めて空や海や風に見えてくるくらいが理想。

第4次（美術室）墨で色紙に和歌を書き入れる。

第5次（美術室、文化発表会展示） 【鑑賞会】

- ・完成作品を鑑賞し合う。

前の資料の説明

- この資料は、コラボする美術と国語の、授業のねらいと授業計画です。
- 図書館活用をさらに広げるために、各教科とコラボレーションして、一緒に授業計画を立てながら、図書館活用をコーディネートして広げていきます。
- それまでは美術科の授業で図書館を使うことはなく、一度使ってもらいたいと思い美術の教員に授業での図書館活用を持ちかけ、国語科と美術科のコラボ授業を企画しました。
- 3年の美術では「日本の伝統色・古典文様」を学習することなので、3年の国語「和歌の世界」とコラボレーションし、授業計画段階で図書館活用をコーディネートします。

校内研究授業



国語科では「和歌から読み取った情景や心情を、物語・鑑賞文、に表現して味わうことにより、和歌の世界に深く入りこむ」ねらいで、好きな和歌を選んで調べます。

校内研究授業で、校長をはじめ他の教科の教員らに、図書館を活用した授業のプレゼンを参観してもらいました。

調べ学習 美術科「日本の伝統食と古典模様」



並行して美術科では、図書館資料を利用して「日本の伝統色と古典文様」の授業を実施しています。

美術の教員からは、白黒プリントではなく、いろんな色と文様をカラーで見せることができ、よかったということでした。

和歌を色(文様)で表現ー淡彩画ー

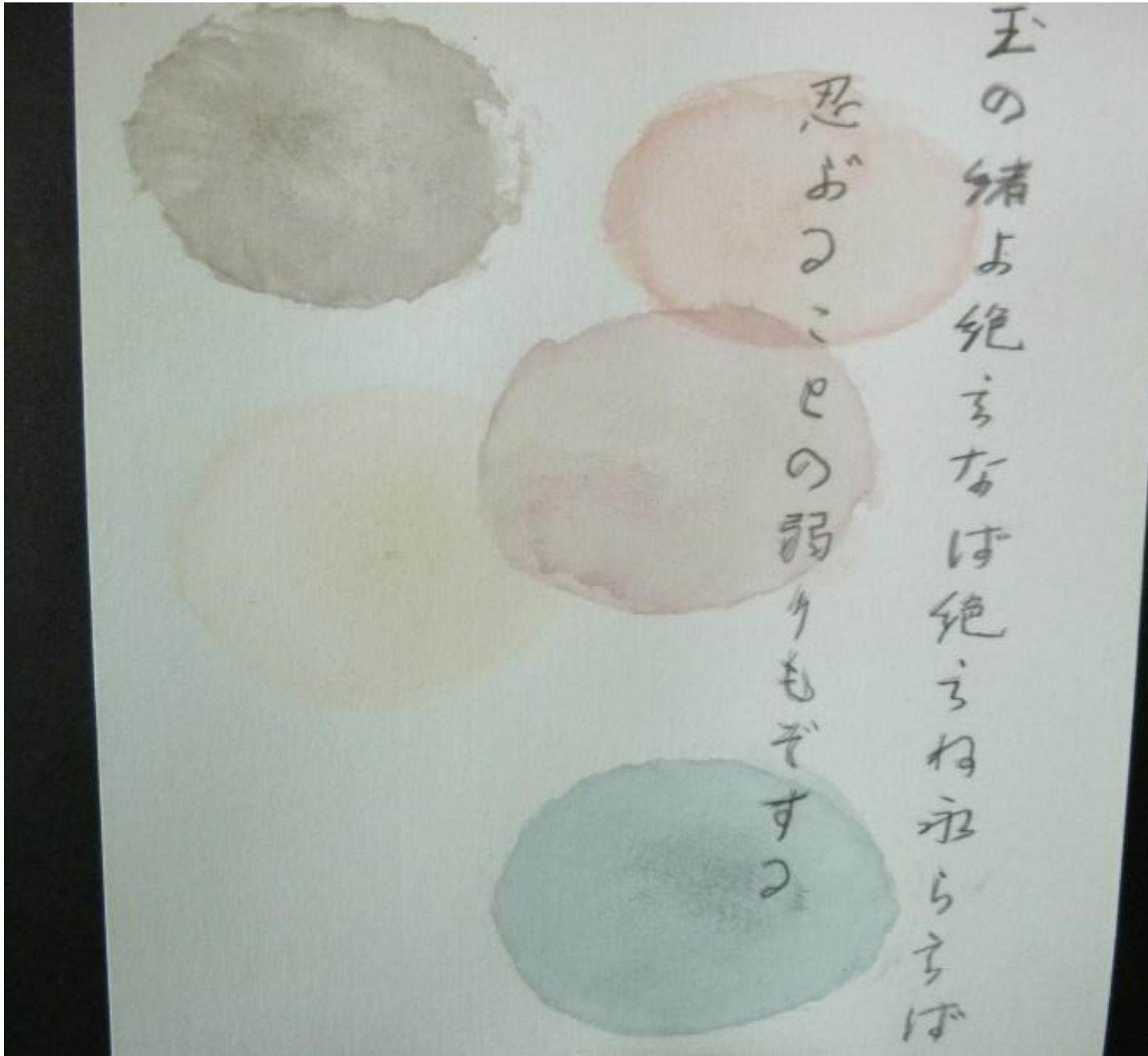


図書館での調べ学習をもとに、和歌を色で表現する「淡彩画」の授業です。

国語で自分が調べた和歌に、作者の気持ちや作者のしている風景のイメージを膨らませ、一番大切な部分を、色と模様にしていく授業です。

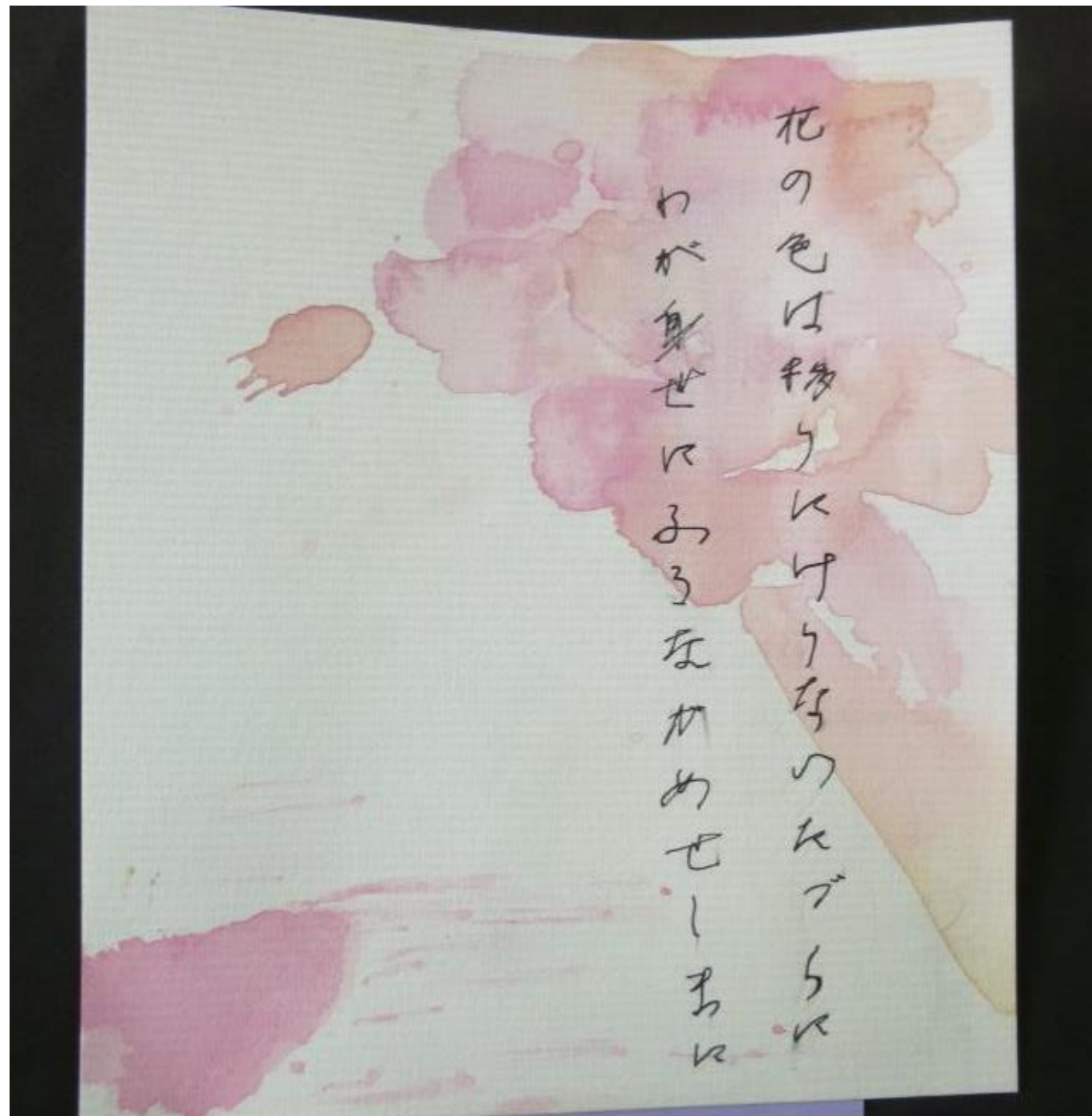
和歌の作者の心の中という、形のないものを色で表現します。和歌を読み取り想像を膨らませ、心の中の印象やイメージを、抽象的に「色や形」「にじみ・かすれ」等で人に伝えます。

出来上がった作品を、生徒の感想で 少し紹介します。

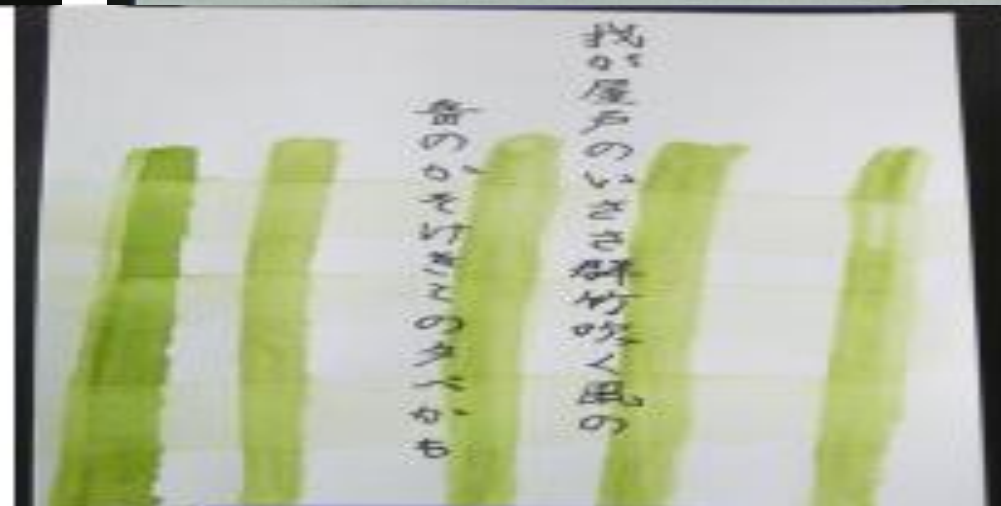
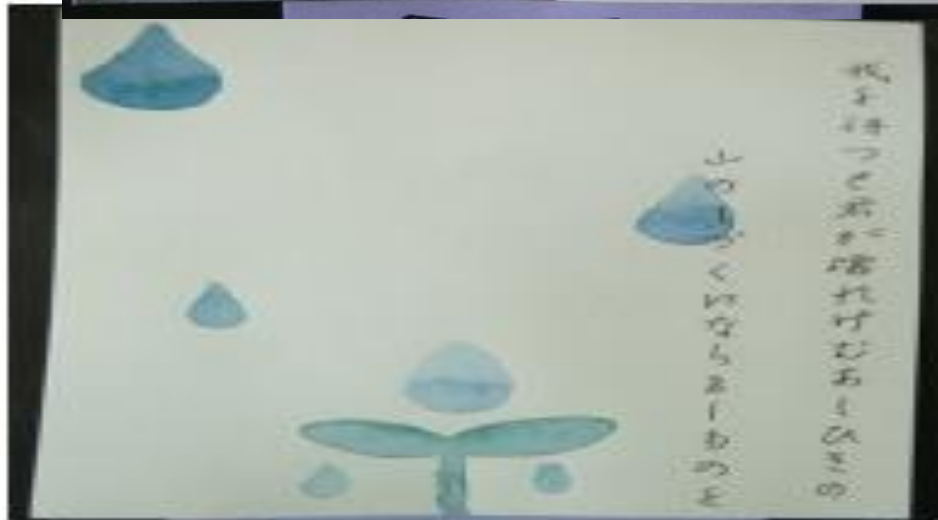
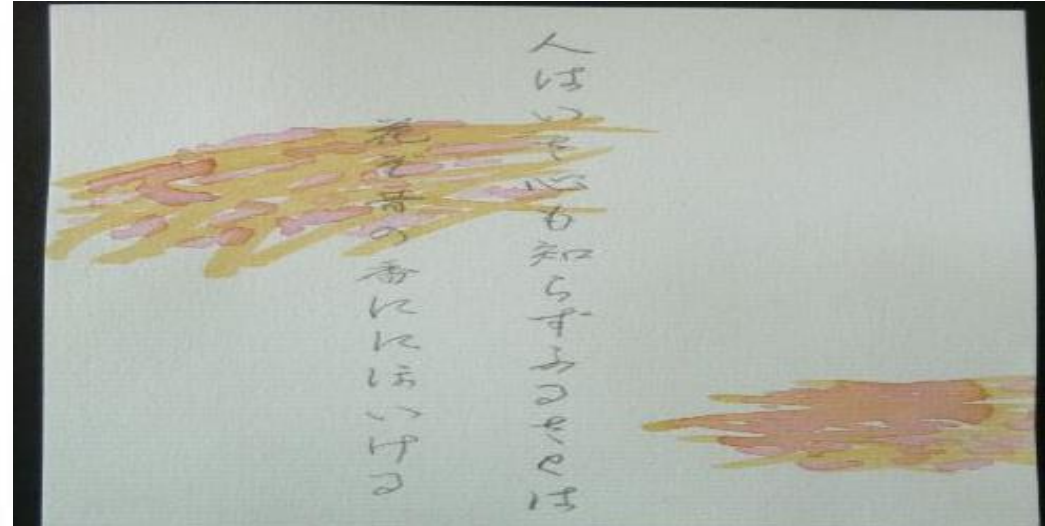


—僕の和歌は、大人の難しい恋の話だったので、これをどうやって絵で表現したらいいのか、ずーっと悩み考えました。丸い淡い5色は、それぞれ、恋の感情、嫉妬の気持ち、人に知られたくない悩み、諦められない心、などを表します。

—ずっと美しかった小野小町が
色あせてゆく、はかない思いが
にじみ出るような色を緋色とい
う色で表現できました。



和歌「淡彩画」作品



「同じ和歌でも、人それぞれ違うとらえ方をするというのに、すごく素敵だと思った」「和歌を深く考えられた。」
—この合同授業で、ぼくは和歌のすごさやおもしろさに気付くことができました。
日本の伝統色を使って、自分の調べた和歌をより良いものにできて良かった。

『文化発表会』展示



図書館を活用した美術科と国語科のコラボレーション作品を、文化発表会で同じ和歌を調べた作品ごとに展示します。共感したり違いを認め合ったようです。

次へとつながる土台を築く図書館活用

教科のコラボレーションで図書館を活用

1、理科・1年「身近な生物を観察しよう」

校庭や学校周辺の生物を観察し、図鑑で調べ理解を深める

2、国語・1年「野原はうたう／言葉に出会うために」

校庭で見つけた生物を題材に、詩を作り、朗読し合う。

3、授業参観にコラボレーション作品の展示・学級通信

お互いに味わう。全校生徒・保護者にも紹介！

応用

理科:次の「植物の分類」「地震」等(調べ学習)へつながる

国語:次の「ダイコンは大きな根？」(説明文)の調べ学習へつながる。

&「今後の短歌・俳句・万葉集」の理解の 土台になる

この要領で、理科・国語科のコラボで図書館活用です

1年生が校庭の花や草や虫を観察する姿を見かけたので、「植物図鑑や昆虫図鑑、図書館に色々ありますよ。」というような話を理科の教員に持ちかけたのがきっかけで、理科と国語科のコラボしながらの図書館活用が始まりました。

理科「校庭の生物観察」→ 図書館「図鑑の生き物」



理科では校庭や学校周辺に生活する様々な生物を探し、観察します。ルーペを使って選んだ植物の花や葉を細かく観察し、スケッチし、理科のワークシートをまとめています。

1年の国語は、工藤直子さんの「野原はうたう」詩の単元で、図書館での理科の調べ学習によって、いろんな草や花や昆虫の世界のイメージを、詩の中に引き込み、詩の世界が広がるように、というねらいでコラボしています。

私は、たんぽぽ

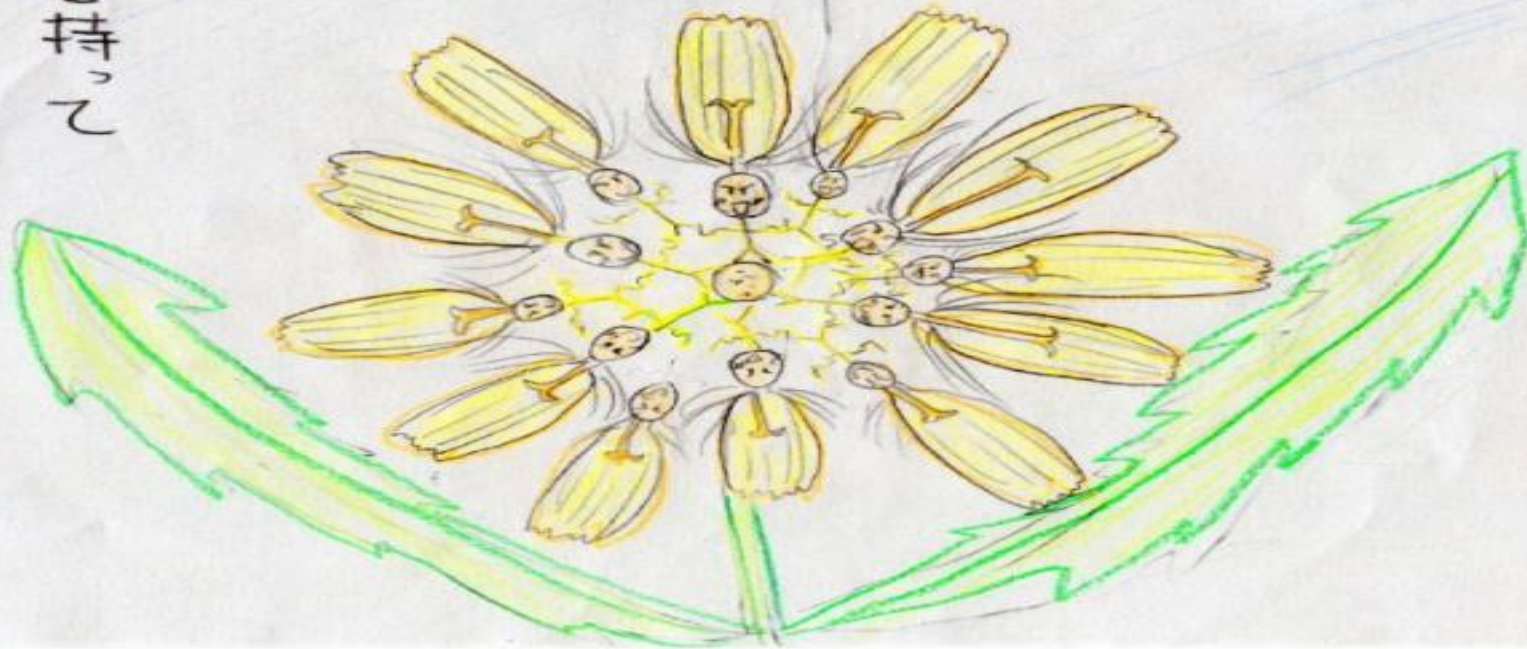
たんぽぽ ニュウ

あたたかい
春がきた

私たちが
みんなで
一生けんめい
咲かせる花

ほら
みんな見て
私たちを見て

長く大きい葉を持って
私たちは
きれいに花を
咲かせます



タンポポは250個の花が集まって1つの花となる、という理科でわかった感動を、詩と挿絵にし、春の新しい出会いの喜びを表現しています。

アクティブ・ラーニングを支える図書館活用

ー ICT活用で広がる情報活用力 ー

『学校図書館』 7月号

7月号は、アクティブ・ラーニングを支える図書館活用、ICT活用で広がる情報活用力です。
中学3年の社会科と総合学習で、ICTを活用した調べ学習で人権学習に取り組んでいます。
中学校3年の10月で、進路関係のこともあり、十分な時間が確保できず、限られた少ない時間の中で、より多くの情報が得られるように、ということで、インターネットと本の両方を活用することにした取り組みです。

コンピューター室で学校図書館の本も活用

4月号で述べました、本校実施の図書館活用計画予定表により、4月の段階で、社会科教員から本の準備の依頼があり、実施の10月までには十分に本の準備を行うことができました。

調べ学習のテーマについても、自館にある本から、社会科教員・学校司書・司書教諭で相談して決定し、それに必要な本を新たに購入するなど、200冊の人権に関する本を準備しました。

この調べ学習では、日本だけでなく、世界の多様な人権問題に目を向けさせることで、幅広い視野に立って物事を考える力をつけさせたい。ICTを活用して主体的に問題と向き合い、多くの資料から考える活動を通して、より奥行きのある人権感覚を身につけさせたいと考えていました。



パソコン検索について

熊中図書館

パソコンのデータは自分が個人的に使う分にはどう使っても自由ですが、調べ学習などで他の人に伝えたりする時、また、自分の考えをまとめる際（レポートや報告書を作成する際）の材料にする時には、注意する点があります。

注意点 1 情報元について

責任表示があるかどうか

（書いている内容について責任をとりますよと書いているかどうか）

例えば、国や市町村の HP・どこかの企業の HP など

ウィキペディアや個人のブログなどは出典に使えません。



注意点 2 著作権について

著作権の侵害や名誉棄損は犯罪になります。

責任表示のないインターネットで読んだだけの内容をレポートに載せる、

また、他の人が書いていたもの、まとめたものを、自分が書いたようにして使うことは著作権の侵害や名誉棄損になるので気をつけましょう。

* 著作権とは…著作物に対し、書いた人だけに使う権利がある
ということを決めた法律のルールです。

著作権侵害にならないためにも、必ずきちんと出典を書きましょう。

使える HP を探すには

まず、調べたいことについて百科事典（ポプラディアなど）や
国語辞典（広辞苑など）で調べておく。

そこで出てきたキーワードでパソコン検索する。

* 例えば

「はやぶさ」について調べたい場合、そのまま「はやぶさ」でパソコン検索すると様々なブログなどヒットしてくる。その中から、責任表示があるものを探すのは時間がかかるので、まずポプラディアで「はやぶさ」を調べておく。そうするとはやぶさを開発したのは「宇宙航空研究開発機構（JAXA）」だということがわかるので、JAXA の公式 HP からはやぶさを調べることができる。

参考文献リスト

『お父さんが教える図書館の使いかた』 赤木かん子著/自由国民社/2014

『先生のための百科事典ノート』 赤木かん子/ポプラ社/2012

『図書館のトリセツ』 福本友美子/講談社/2013

『調べるって楽しい！インターネットに情報源を』 大串夏身/青弓社/2013

事前に、教員向けの ICT 活用のための コンピュータ室利用ガイダンスを行ったことも有意義でした。

生徒は、「インターネットで検索したい語彙」をあらかじめ本で調べてからインターネット検索し、また、インターネット検索ではわかりにくい箇所を本で調べる、等、生徒は、インターネット検索と本の両方をうまく活用し、多くの情報を得ることができたようです。

レポートに必ず記載する内容

- 発表主題（発表したいテーマ）
- クラス、班、班全員の氏名
- 取り上げた人権に関する問題の現状
- その問題に対するとりくみのようす
- その問題の解決に向けた班の意見
- 今回の学習の感想（全員）
- 参考文献
（参考にした書籍、インターネットのホームページ名、またはURLを明記すること）

レポートに必ず記載する内容も提示しながら、情報源・参考文献の明記の仕方、著作権・引用のルール等、利用指導も行っています。

学年集会で「3年生人権学習発表会」

スクリーン・プロジェクター・デジタルビデオカメラ

学年集会で、それぞれのクラスの代表になった班が、視聴覚機器を活用して資料を提示し、わかりやすく伝え合う活動を行っています。

社会科の教員からは、「このICTを活用した調べ学習を通し、生徒たちは、教員が提示したテーマ以上に、こちらの予想の範囲を超えて自らテーマを考え、広く調べる班も出てくるなど、自分たちで解決する力が向上し、豊かな人権感覚を育むことができた。」ということでした。



社会委員による
司会・記録

情報収集とパワーポイント発表



学校図書館に、人権に関する本が揃ったのを機に、毎年、1年生でも2年生でも、ICTを活用した情報収集・情報活用・情報発信が行われることにつながっていました。

「ルポルタージュの 登場人物から学ぶ」



“語り部”として ルポルタージュの
登場人物を招く（生徒会主催）



道徳の時間
絵本を使って



種まき



はるかひまわり

前の写真の説明

“生徒会 & 学校図書館 & 道徳”のコラボの取り組みです。

本校では、東日本大震災があった次年度の生徒会活動で、自分たちにできる事は何かを考え、人と人の絆の大切さを考える「絆プロジェクト」を企画しました。間に、学校図書館の本や新聞など資料を活用して、震災の被害の実態、ボランティアの意義、命の大切さについて考え、取り組みました。

その時に、本校図書館にある絵本『はるかのひまわり』のモデルである加藤いつか氏を招き講演会を行いました。

東日本大震災でがれきの下敷きになって亡くなったはるかさんのお姉さんです。

その際に、学校図書館とタイアップして、総合学習や道徳の時

その前に、生徒会企画の全校集会で、学校司書が絵本『あの日をわすれない はるかのひまわり』の読み聞かせを行っています。その後、各教室で道徳の時間に、学校図書館の本や阪神・淡路大震災の資料を使って、一斉に授業を行い、次に、生徒会主催でこの絵本のモデルである、はるかさんのお姉さんを“語り部”として学校に招き、じかに阪神・淡路大震災の体験を語っていただき“家族・命の大切さ”を全校で学んでいます。

その後、はるかさんが亡くなった場所から芽をだしたといわれる“ひまわりの種”を植えようと、生徒会企画で放課後集まって、校舎横にある畑の草引きをして耕し、はるかのひまわりの種を蒔き。夏休み中の水やり当番も決め、「はるかのひまわりを育てよう」かつ「支え合って生きる心を育てよう」と取り組みました。

これらの取り組みを通し、生徒の感想には、人の心の温かさや命の危うさについて書かれたものがたくさんあり、命の大切さについて深く考えられたことがよくわかりました。

この取り組みが地域の新聞にも取り上げられたことから、生徒たちは達成感を味わえたようでした。

このように、学校図書館の本が道徳や総合的な学習の時間で活躍することも、次第に増え、学校図書館としての大切な役割を果たせたのではないだろうか。と思っています。

数学「統計」プレゼンテーション資料作成



前の写真の説明

- 数学科と学校図書館活用と生きる力です。
- 図書館担当教員を倍に増員してから、数学の教員も図書館教育部に入り、それがきっかけで、1年生の数学科で統計の調べ学習を行うに至りました。計算方法を覚えるだけでなく、数学を身近で楽しく生活で使えるようになるといい、というねらいで始まったものです。
- 資料は、朝日年鑑を中心に、ポプラディア・新聞・百科事典・インターネット検索、等の資料を活用しています。
- 自分たちで、資料整理し、結論を導き、班でまとめ、プレゼンしています。
各クラスの発表日時を記した「グループ発表のお知らせ」を担当に配り、「子どもたちがとても頑張っていますので、もしお手すきでしたら見に来てください」という授業見学案内を各担任に知らせていました。
- 数学の教員から、成果として、教科書の範囲の内容を超え、大学で習う数学に自らたどり着いた生徒もいた。
身近で生活で使えるように、実生活でよりよく活用できる一歩を踏み出した。ということでした。
- どの教科の取組みもそうでしたが、「本や資料とつながることができる生徒として、また、つながりを共有できる集団としての成長が見られました。
- このように、「自らの課題設定や、ICT活用による諸資料からの情報収集、主体的な情報処理、教え合い伝え合う情報伝達、どのプロセスにおいても、主体的で協働的な学びとなり、このようにして学校図書館はアクティブ・ラーニングを支え、教科等を総合的・横断的にさまざまな学びをつなぐ可能性を一層広げている」と考えます。

図書委員会活動を活性化させる

運営をめざして

『学校図書館』 8月号

8月号は、「図書館教育部の運営と組織の拡大」です。
図書委員会活動、や図書館活用を活性化させるために、図書館教育部の組織を拡大し、多くの教員に関わってもらう組織の体制作りをしていく事が大切だと実感しています。

図書館教育 年間計画

熊取中学校

時期	図書委員会 活動内容
4月	目標の決定、前期役割分担の決定、図書委員名札作り、本の貸出当番開始
5月	「熊中図書館ルール」の決定・作成と全校集会での発表、p o p 作り 前期読書月間にむけての企画、朝校門にて本準備の呼びかけ（広報活動）
6月	スクールライブラリークイズ、ワークショップ、漫画で語ろう会 図書委員による推薦図書紹介、ビブリオバトル（読書会）
7・8月	熊取町立図書館見学 ・ 府立佐野高校図書委員会との交流会 熊取町3中学校図書委員交流会
9月	教員による推薦図書紹介「熊中teachers」冊子作成
10月	前期活動の振り返りと表彰、各活動をまとめて文化発表会に展示（広報） 後期役割分担の決定、図書委員名札作り
11月	後期図書館ルールの作成と全校集会での発表、後期読書月間にむけての企画 給食放送での本紹介・読み聞かせ、広報活動
12月	スクールライブラリークイズ、漫画で語ろう会、ワークショップ、
1月	図書委員による推薦図書紹介・ビブリオバトル
2月	後期各活動のまとめと振り返り（展示）
3月	未返却者への「返却お知らせ」作成、後期活動の振り返りと表彰

☆毎日の昼休み図書館ふれあい活動

（資料1）図書委員会活動年間計画

図書委員の生徒と一緒に
行う年間の図書委員会
活動計画です。

本校は以前、各学年から
1名ずつ計3人で、概ね
国語科の教員のみで図
書館教育部を構成してい
ました。

この少人数の組織では
図書委員会活動等、図書
館に関することが中々広
まりにくいので、一人でも
多くの担当者を、そして若
い教員を巻き込んで運営
していこうと試みました。

図書委員会年間計画

主な行事と役割分担

行事	日程	主 担	副
ふれあい活動	昼休み	前川(学年主任)	高橋(美術科)
図書館ルール作成	4・10月	高橋(美術科)	東尾(英語科)
前・後期読書月間	6・11月	紀之定(国語科)	片倉(通級支援)
給食放送で本紹介	給食中	高橋(美術科)	東尾(英語科)
ライブラリークイズ	昼休み	浅田(数学科)	前川(理科)
町立図書館見学	7・11月	紀之定(国語科)	原学校司書
高校図書委員会と交流	8月	紀之定(国語科)	前川(理科)
熊中teachers冊子	9月	東尾(英語科)	片倉(体育科)
漫画で語ろう会	7・12月	高橋(美術科)	浅田(数学科)
ワークショップ	7・12月	浅田(数学科)	東尾(英語科)
ビブリオバトル	7・2月	紀之定(国語科)	片倉(体育科)

校務分掌の図書館担当を、各学年から2名ずつにして以前の2倍に増員し、学校司書を含め計7人で図書委員会を運営していくことにしました。以前の倍の人数に拡大するということは、国語科だけでなく、理科・数学・英語・美術・社会等の教員や学年主任など、多くの教科の教員が図書館担当に入って、図書館教育にも関わってもらえる可能性が出てくるということであり、これが大切だと思っています。

例えば、図書館担当になったのがきっかけで、数学「統計」の調べ学習をしたり、これまで図書館利用の少なかった教員も、生徒たちと一緒に図書館行事を企画して実施するなどの活動を通し、図書館への理解が深まっていったことを実感します、組織を拡大することが、一気に図書館教育を学校教育の中に広げていくことにつながりました。

図書委員会活動行事を。それぞれ教員に得意分野を担当してもらう。例えば美術の教員には“漫画で語ろう会”を主担でもってもらう。学年主任には昼休みの図書館見回りや図書館で起こる生徒指導など、図書館でのふれあい活動を主担で行ってもらう。など、それぞれ得意な分野を主担でもって、ともに手分けしてみんなで協力して関わる協力体制作りをします。

朝の校門で読書月間の本準備の呼びかけ

図書委員会の各行事ですが、読書月間は、本の準備ができていることが一番大切であるので、さまざまな手立てを試みてみました。

図書委員が朝の校門で本の準備を呼びかけ、「読書月間です。朝も図書館が開いています。朝も本を借りられますよ。」と声をかけます。



朝の読書「めざせ1万ページ」



朝の読書の様子です。
図書委員が校内放送で、
読書開始を促したり、また、
きれいなピアノ曲を流し、
読書開始である事を知らせたり、
図書委員が頑張っています。

先生が読んでいると、
生徒もよく読みます。

読書月間 本のリレー読み



—— 3週間の朝学活で、君は何百ページ本を読めるか！ ——

年()組()番 氏名()

◆ 毎朝、忘れずに記入しましょう。

月/日	曜日	書名	今日読んだページ数	初日からの合計ページ数
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				

読書月間では、
読書リレーカードを全
校生徒に配布します。

励みにして、1万
ページを目ざします。

読書月間の朝学活で読んだ、

私の総読書量は . . .

町立図書館見学



読書月間中は、図書委員が本を選んで学級文庫を設置します。図書委員会イベントの“町立図書館見学会”の機会に、書庫を見学しながら、学級文庫用の本をたくさん借りてきて、各クラスに設置します。

図書委員からは、「どの本だったらみんなに読んでもらえるかを考えて本を選んだりしたので、図書委員という実感がした。」等の感想や、本の多さに感激したようで、中学校と公共図書館が関わる良い機会となっています。借りた本は、さまざまな形で生徒に提供されます。

学校司書による 読み聞かせ



学校司書による読み聞かせがあり。支援学級では楽しみにしています。

配膳読書(すき間読書)

毎日の配膳読書の際に自分の選んだ本が常に用意され身近にあると、短い休憩時間や、食事を済ませてから給食を片づけ「ごちそうさま」の合図を待つ。

短いすき間にも読書に親しむ生徒がでてきて、身近に本を準備しておくことの大切さを実感します。



—— 図書委員「お薦めの一冊」給食放送での朗読紹介《手順》 ——

(放送部)

「7月1日()曜日から、熊中読書月間が始まります。

スムーズにスタートできるように、しっかり本の準備をしましょう。」

「今日は、()年()組の図書委員()に、「お薦めの一冊」を紹介してもらいます。静かに聞いて下さい。」

自分の担当は()月()日()曜日

図書委員会から、熊中読書月間にむけて、「お薦めの一冊」を紹介します。

今日 紹介する本は、

作家()さんの作品で、本の題名は『]です。

(感想など考えて話す)

という点で お薦めです。

では、この本の 印象深い所を 少し読んで、紹介します。

(この本の 紹介したい部分を 1ページ程 朗読する。)

(P. ~ P.)

《 大きな声で ゆっくり 朗読する! 》

さて、この続きは どうなるでしょう?!

今日 紹介した本は、図書館の「展示コーナー」 に展示しています。 興味のある人は見に来て下さい。

これで、『]の本の紹介を 終わります。
読書月間中は、静かに 朝の読書に 取り組んで下さい。

(放送部)

「7月1日()曜日から 熊中読書月間 が始まります。

まだ本の準備ができていない人は、本の準備をしてください。

「朝の読書」の間は、静かな音楽が流れます。音楽が流れ始めたら、自分たちで着席し、本を読み始めるようにしましょう。」

放送部員・図書委員が、
昼の給食放送で読み聞かせ
を行う期間があります。

生徒の選んだ絵本は人気
があり、生徒による読み聞かせ
がブームになっています。

放送部員・図書委員が本を
紹介する機会が多いので、
マニュアルを作成し、自分たち
でいつでも読み聞かせや
本の紹介ができるように用意
しておきます。

お話しキャラバン

地域ボランティアの“おはなしキャラバン”があり、読書月間の取組みの一つになっています。

文庫連のスタッフによる読み聞かせやストーリーテリングを通して、本のおもしろさを体験できます。



図書委員お薦めの本



図書委員による、お薦めの本紹介があります。「図書委員がもっとみんなに本を勧められるように、自分たちももっと本を読もう。」と、意見を出し合っています。

図書委員のお薦め本紹介は、図書館前廊下への掲示や、pop作り、図書だよりへの掲載、給食放送での朗読紹介、等さまざまです。図書委員お薦めの本は、本校図書館の入り口付近に並べられ、人気があります。

全教員の協力による『お薦めBOOK』

教科の先生からのお薦めの本

教科 (数学)	先生のお名前 (岡崎 修治 先生)
書名 零の発見	著者 吉田 洋一 出版 岩波新書

イットにおける「0」の発見が数学と計算法の発達に大きく貢献したことを語った本です。
お薦め、この発見のおかげで、きわめて明快な数の世界で生活できていることに気付かされます。

熊中の先生が薦める「お薦めの一冊」

書名 「あひにに出会って」
作者 「上田 篤彦・上田 希望」
出版 「不星舎」

本の紹介
重い障害をもちて生れ、1歳まで生きられるのがどうかと云われるが、25歳を迎えることができた希望。そして彼とお母さん篤彦がつづきに評集。悲しい時、苦しい時、楽しい時... じの支えにならる。

推薦者 (根来 志帆) 先生 担当教科 (保健)

1100
あひにかくはる
ぜひ見てな!!

全教員からの『お薦めの本』熊中teachersの冊子です。

校長や教頭・教務・生徒指導主事・養護教諭等、全教員の協力による“お薦めbook”です。忙しい中、協力をしてきています。



生徒主体の図書委員会活動



みんなが理想とする図書館の過ごし方の意見を
活発に出し合い、“みんなが利用しやすい図書館”
にするために、図書委員会目標や図書館ルール
を作成します。

図書委員会では委員長と副委員長が司会進行する
ことがよくあります。



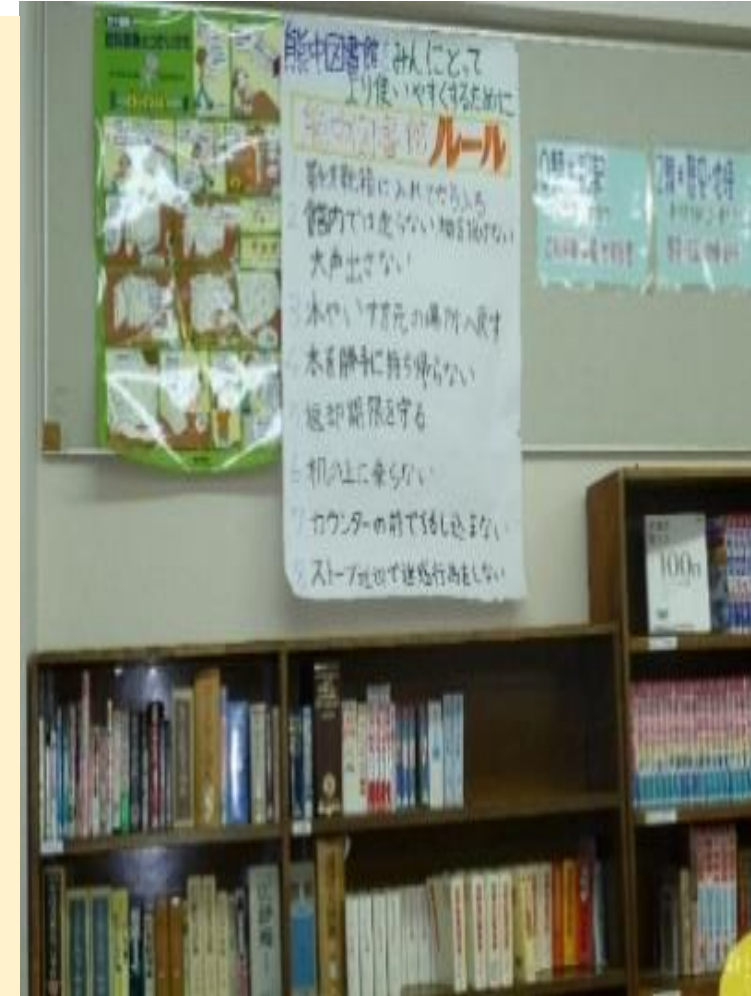
「図書館ルール」全校集会で発表 図書館掲示



図書館ルールを作成するようになったのは、マナーに問題がたくさんあったからです。

以前は、図書館内が騒がしくて本当に本を読みたい生徒が読書しづらい、入り口が脱いだ上靴だらけでふさがっている、走り回る、机の上に寝転がる、本が多数紛失する、喧嘩が起こる等、異年齢が利用する場所でもあり、中学校の図書館は問題が山積みでした。

そこで、このような大変な実態をみんなに考えてもらいたいと考え、毎年実態に合わせルールを作り変え、全校集会で「図書館ルール」として、全校生徒に呼びかけるようになりました。集会の後には、図書館に掲示し、常に意識できるようにしています。



A子「新しい本が入ってきているかなあ。みんなで心理テストする？」

—— ある4月の昼休み。僕たちは友だち数人で図書館に行くことになった。

B君「俺、『三国志』を読もうかなあ？ギネスブックか野球の雑誌も結構おもしろいなあ。」

A子「私は『一瞬の風になれ』が好きやなあ。『IQ探偵ムー』とかお菓子の本もいいで。」

C君「僕は『BLEACH』が読みたい。いつもワクワクさせられるわ。」

D君「やっぱり『ONE PIECE』やで。 おもしろすぎ！ ゾロが格好いい。」

B君「俺、ワンピースの次の巻がすごい楽しみや。図書館にワンピースあってうれしいし。」

—— みんなで話しながら、図書館前廊下を歩いていた。

D君「アレッ？？？ 廊下に掲示されていた映画のパンフレットが無い！」

C君「ほんまやー。たくさん無いようになってる・・・？」

A子「今どんな映画を上映しているとか、内容が少しでもわかるし便利だったのに・・・。」

B君「映画情報をゲットできて、俺、結構楽しみにしていた。」

C君「俺、ほしくて我慢してた。」

D君「やたら参考になり、映画みたいって思ってたのに！」

—— 残念なことが続いた。

C君「図書館は、ゆっくり出来ていいなあ。」

A子「静かなかんじがイイ☆ 落ち着く。」

D君「あたたかいなあ。いろんな本とか好きな本、いっぱい読める。」

B君「あれッ？『ONE PIECE』の6巻7巻8巻9巻10巻11巻……がない？」

A子「えっ！」「あッーあ」

C君「合計9冊もなくなっている！？」

B君「読みたかったのに……。なんで？ ショック！」

C君「図書館の楽しみが減ってしまう。」

A子「かなしいし。本とか映画パンフレットとか、もどってきてほしいな。」

—— 僕たちは、なんか不安ないやな気分になった。

本校図書館で実際に起こった問題を道徳教材「熊中ライフ」として、司書教諭が作成し、全校生徒に問題を投げかけ考えてもらうこともあります。

全校生徒から出てきた意見をまとめ、「熊中ライフ返信編“こんな意見ありました”」として皆に戻します。

このように、図書館運営において、その折々において対処していかなくてはならないこともあり、司書教諭の役割はさまざまです。

このほか、図書館で起こった気になること等、急を要する場合は職員朝礼で、検討を要する場合は運営委員会・職員会議で報告・相談します。

また、読書月間の振返りアンケート結果等もフィードバックして伝え、共通理解を図ります。

こういった面のファシリテーター役も、図書館運営において司書教諭として忘れてはならない役割です。どんなときも、全職員の協力や応援によって支えられている、と感じています。

◎ 図書館の本や映画パンフレットなど、みんなで使う物はどのように心がけたらいいのだろう？

- ・ 誰か一人がきたなく使っていても、それをまねしないで、そこで誰か一人がやめたら、そこで、盗まれたりきたなくするのをやめさせることができる。
- ・ みんなの事を考えて、ルールを守って使う。
- ・ 本や映画パンフレットなど、とられないように、みんなに心がけてもらう。
- ・ 次に使う人の事を考えて使う。ていねいに使う。正しく使う。きちんと片付ける。
- ・ 常識をわきまえる！！
- ・ 本はそのあった場所に直して、パンフレットもほしくても我慢している人もいるから、見るだけにする。ルールを守る。次の人の事を考える。
- ・ みんなが楽しみにしているから、自分一人で独占しようと思うんじゃなくて、みんなで使ったらいいと思う。 (1年)
- ・ 公共の物（みんなの物）だから、大切にみつかわなくてはイケナイし、パンフレットも破ったりしないようにしなくちゃダメ！！
- ・ みんなが使う物だから丁寧にみつかい傷つけず大切に使う。
- ・ 自分の後に見る人がいい気持ちで見られるようにする。
- ・ マンガは持って帰らない、休み時間だけ読める。映画のパンフレットは持って帰らず見るだけ、といったその物のルールを守って物を使っていく。
- ・ みんなが使うということを分かった上で使う、という心がけ。
- ・ 借りた物は返して、ていねいに扱う。
- ・ 大切にする。皆が楽しく使えるように。 (2年)
- ・ きまりを守る。常識を守る。借りたら返す。
- ・ 他の人の事も考えて、借りた物はちゃんと返して、みんなの物とかみんなが見る物は勝手にとったりしないように心がける。
- ・ 「みんなが使うもの」っていう感覚であつかう。自分だけの物ではない。みんなで使うから、人のためを思って、大切に扱う。
- ・ 自分以外にも使う人のことを考える。取らずに見るだけにする。自分だけのものじゃないことを知る。
- ・ みんなのものなので勝手にとったりしない。
- ・ 自分が読んだら、もとの場所に戻して、ひっぱったりせんと、ていねいに使わなあかん。 (3年)

図書館イベント 振り返りポスター



図書館行事は、事前にポスターを作成して全校に案内し、事後は、イベントごとに取り組みの様子や感想を振り返り、模造紙にまとめ、玄関や図書館前に掲示します。文化発表会にも展示し、全校に紹介します。

制作中の図書委員の生き生きした表情から、楽しみの一つであることがうかがえます。